



砂川市議会議長  
多比良 和伸



砂川市長  
飯澤 明彦

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、北海道として初の線状降水帯が発生するなど、豪雨および暴風雨による自然災害が多数発生し、道内各地に甚大な被害がもたらされました。特に、釧路地方・十勝地方においては、観測史上1位の1時間降雨量となり、道路冠水、家屋浸水、住宅の一部損壊が相次ぎ避難指示が発令されるなど、これまで想定していない災

害が発生し市民生活に大きな損害をされました。これら災害を想定し、砂川市では、コンテナ型トイレ、水循環型シャワーを新たに導入するなど万全の態勢に努めていますが、あらためて災害に対する日頃の備えの重要さを考えることとなりました。

市内におきましては、まちなかの活力とにぎわいの創出を目的としたまちなか交流施設「すない」がオープンし、延べ5万5000人以上の方にご利用いただきました。また、すないを活用したイベントの開催により、新たな人の流れとにぎわいが生まれております。今後も市民にとって魅力ある居心地の良い空間となることで、まちなかの活性化につながるよう取り組んでまいります。

子育て支援につきましては、「子育てるなら砂川」との想いから環境の充実を図るため、引き続き高校生までの医療費無料化および給食費の無償化の実施、乳児すこやか応援クーポン券支給事業の拡

充を図ったほか、母子保健と児童福祉の機能を一体的に運営する子ども家庭センターを開設し、あらゆる相談に応じるなど切れ目のない包括的な支援に取り組んでおります。また、砂川小学校132年、北光小学校125年、空知太小学校122年、豊沼小学校75年、中央小学校35年、砂川中学校31年の歴史に幕を下ろし、本年4月からは義務教育学校「砂川学園」として第一歩を踏み出します。義務教育9年間を一体的に捉え、指導の一貫性や学びの系統性を重視した教育活動を展開してまいります。

引き続き、この砂川を「誰もがいつまでも健康で住み続けることができるまち」にするため、市として抱える課題に一つひとつ真摯に向き合い解決しながら施策を進めてまいります。

市民の皆様がご健勝で幸多き年となるよう心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたしま

した。また、12月8日深夜に、青森県東方沖地震が発生し大きな揺れを感じ、津波注意報が道内沿岸部に発表され、多くの市町村での被害状況が報道されました。

大きな災害が「いつどこで起きてもおかしくない」ことを思い知らされ、防災・減災対策をでき得る限り講じることの必要性と重要性について考えさせられました。

砂川市では、市街地付近にヒグマが頻繁に出没している状況を受けて、7月8日から11月7日まで市全域に「北海道ヒグマ注意報」が発出され、多くの市民が不安な日々を過ごしました。人身への被害はないものの、農作物の被害状況が報告されました。被害にあわないためにも、ヒグマについての正しい知識を持つことが大切と感じています。

4月にオープンしたまちなか交流施設「すない」では、新たな活動拠点として、イベントなどに市内外から多くの人々が集いにぎわいを見せてています。

本年4月には、子どもたちが心待ちにしている義務教育学校「砂川中学校31年の歴史に幕を下ろし、本年4月からは義務教育学校「砂川学園」として第一歩を踏み出します。義務教育9年間を一体的に捉え、指導の一貫性や学びの系統性を重視した教育活動を展開してまいります。

引き続き、この砂川を「誰もがいつまでも健康で住み続けることができるまち」にするため、市として抱える課題に一つひとつ真摯に向き合い解決しながら施策を進めてまいります。

市民の皆様がご健勝で幸多き年となるよう心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたしま

市民の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかにお迎えになられたことと議員一同心からお慶び申し上げます。また、日頃より議会活動に対するご厚情とご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、地球温暖化に伴い北海道の真夏日は、観測史上最多の72日を記録し、気温の上昇とともに熱中症による健康被害が多く見られ、9月には、各地で記録的な大雨による洪水や土砂災害などによる避難指示が出されま

います。

</